

日米欧の医師資格も目指せる 究極の裏技「ハンガリー留学」

医師になる究極の裏技、まったくの別ルートとして秘かに注目されているのがハンガリーへの留学だ。

ハンガリーの外貨獲得手段の一環で四つの国立大学医学部が留学生を積極的に受け入れているのだ。制度が開始され1期生が海を渡ったのが2007年。現在218人の日本人留学生が医師を目指して奮闘中だ。

旧共産圏の国だが、医学分野でノーベル賞受賞者を輩出しているように、医学教育のレベルは先進国と遜色ない。

それにしても、なぜハンガリーか。大きいのは費用面でのメリットだ。学費は6年間で約9万米ドル。生活費や語学の予備コースの授業料を含めても総額1600万〜1800万円、日本の私立大学医学部の学費より格安だ。

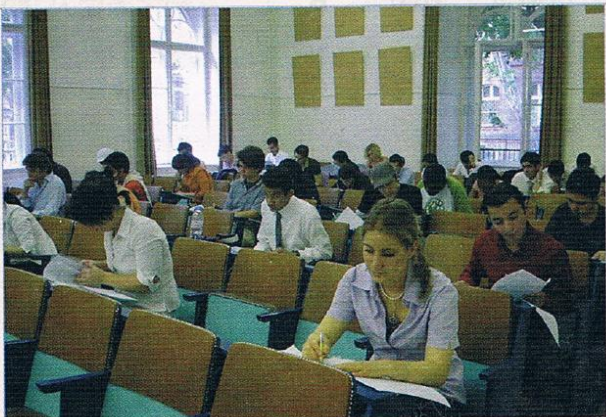
費用以上にメリットがあるのが卒業後の進路の幅だ。EUに加盟しているため、ハンガリーの医学部を卒業して試験に合格すれば資格はEU27カ国で通用する。

しかも、ハンガリーでは母国語の教科書類はなく米国の医学書を使用し、授業は英語。米国の医学部と同等の教育がなされるため、卒業後は

米国へ渡り、米国の医師免許の取得もしやすい。もちろん日本の医師国家試験に合格すれば日本でも医師になれる。

気 になる難易度だが、「日本の一流私大の工学部並み」(ハンガリー医科大学事務局)。ちなみに入学後はハードで進級も厳しい。実際日本人1期生24人のうち8人が中退して、8人が留年している。

留学生のうち3割が医師の子弟。日本の医学部に入れなかったから、という留学生もいるが、「医師もグローバルな時代」とあって子弟を留学させている大学医学部教授や研究医も少なくないという。



ハンガリー国立センメルweis大学医学部の進級試験風景。アジアやアフリカからの留学生は珍しくない